

ちば里山新聞

（第 76 号）
編集発行 NPO 法人ちば里山センター
袖ヶ浦市長浦拓 2 号 580-148
☎ 0438-62-8895
題 字 倉島 貴浩
（ワークホーム里山の仲間たち）

自然共生サイトに認定された堂谷津の里！！

千葉市若葉区谷当町にある堂谷津の里は、長年放置された谷津を土地所有者に代わり市民が管理して生まれた、体験と学びの場です。2024 年 3 月にその自然環境が評価され環境省の自然共生サイトに認定されました。ここは、谷津田を斜面林が取り囲む谷地形で、谷奥等に湧水を観察することができます。面積は谷津田や斜面林等あわせて約 10ha です。

現在は OECM※として国際登録され、生物多様性保全の世界目標 30by30※の達成に微力ですが貢献しています。

最近は、環境保全に力を入れる民間企業から支援を頂けるようになりました。

※世界目標 30by30：2030 年までに陸域、海域の 30%を保護し損失が続く生物多様性を回復基調に戻す

※OECM：国立公園等の保護地域以外の民有地等で、適切な管理により生物多様性が保全されている地域



<< 堂谷津の里の保全活動 >>



NPO法人バランス 21 は、2012 年以来、千葉市の谷津田等保全区域の堂谷津の里で、土地所有者並びに千葉市と協働で環境保全活動に従事してきました。

米づくりや林の管理、生きもの調査など NPO 会員それぞれの興味を生かしながら、谷津の水環境の調査も含めた幅広い活動を展開しています。

ここでは冬期湛水の谷津田から斜面林にかけエコトーンという生きものの豊かな環境が形成され、これを背景に 10 年あまり無農薬の米づくりを続けています。

<< 「人と自然のつながり」を体験する >>

私たちは堂谷津の里で、市民に向けた米づくりや育林、自然体験イベントなどを運営しています。これらのイベントは「人と自然のつながり」を体験し学ぶ機会になります。私たち保全活動従事者にとっても、ここでの体験は「人と自然のつながり」に気づく貴重な機会となっています。

<< 堂谷津の里を見学してみませんか >>

ここの自然は絶え間ない人の営みによってのみ維持される二次的自然です。堂谷津の里の自然や私たちの活動に興味を感じられた皆様、まずは堂谷津の里を見学しませんか。ここでの体験から、私たちが自然とどう向き合うべきかヒントが得られるでしょう。皆様の見学を歓迎します。



ついやってしまう危険なチェーンソー、刈払機の取り扱い

私は林業・木材製造業労働災害防止協会千葉県支部（以下林災防）で労働安全衛生法に基づくチェーンソー特別教育及び刈払機作業安全衛生教育の講師をしています。また里山団体の安全講習会に呼んでいただき、安全に関するお話をさせていただいています。これらの講習会で、チェーンソーや刈払機の取り扱い方で事故につながる使い方が見受けられ、その都度指摘をしています。

今回ちば里山センターからチェーンソー、刈払機についての原稿依頼を頂きましたので、つついやりがちな危険性の高い取り扱い方についてこの紙面でお知らせし、皆様の事故防止につながればと思います。



写真 2

1 チェンソー

(1)右足を引いて体を斜めにし、チェーンソーは体の右に

丸太等を切る時、初心者の多くは、体を丸太に正対し、チェーンソーを体の正面に持つ姿勢を取りやすいです。この姿勢は切断位置は分かりやすいのですが、これではキックバックが起きた時、チェーンソーのバーが頭に当たり大怪我をする危険性があります（写真1）。私が講習会等で教えている姿勢は、チェーンソーの後ハンドルは右手、前ハンドルは左手に持ち、右足を引いた姿勢です（写真2、3）。この姿勢ではチェーンソーが自然に体の右側に来るので、キックバックを起こしても顔に当たりません（写真4）。しかし、この姿勢では切る位置が分かりづらくなりますので、切る位置を正確に定める練習をしてください。



写真 1

(2)水平切りはチェーンソーのバーを水平に保つ

伐倒時、作業者がチェーンソーのバーを水平に保てないため、受け口の水平切の面と追い口の面が地面に平行になりません。その結果（図1）のように「つる」の左右の長さに差が生じ、設定した伐倒方向には倒れず、事故につながる危険性があります。

これを防ぐためにはチェーンソーのバーを水平に保つ練習が必要です。この練習のために水準器等をチェーンソーのバーに乗せて、水平をとる方法をお勧めします（写真5）。

短い

長い

図 1



写真 3

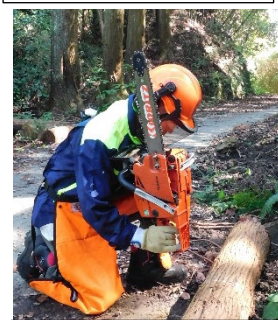


写真 4

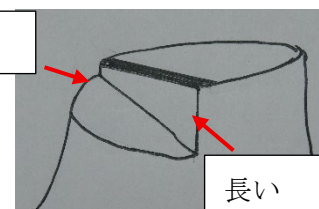


写真 5

2 刈払機

(1)飛散防護カバーはメーカー指定位置

林災防や里山団体の講習会で皆さんが普段使っている刈払機を見せていただくことが有りますが、飛散防護カバーを外す、あるいは指定の位置から高くずらしてあるものを見かけます。もしこのような状態の刈払機を使って事故を起こし、裁判になった場合、安全装置が働かない状態で刈払機を使用したとして、裁判に負けるかもしれません。飛散防護カバーは指定された位置に取り付けましょう（写真6、矢印）

飛散防護カバーを外すあるいは位置を高くずらす使い方は、刈刃とカバーの間に刈った草が挟まれることを防ぐためと思われます。刈った草がこのような状態になるのは、教科書どおり刈刃の前左側3分の1で刈っていないことが原因です。また切れない刈刃を使用している、刈払機の出力が小さく草に負けていることも考えられます。①刈刃の前左側3分の1、②刈刃の確認、③現場の草に合った出力の刈払機の使用をしてください。

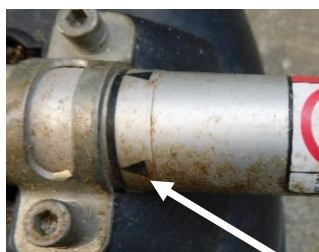


写真 6

市川という「都市」にある森はとっても貴重なんです

9月7日(日)森林率2%の市川市に東京都市大学の内田圭先生をお招きして「いちかわ都市森講演会」を開催しました。市川市は梨の産地として有名で、特に北部に梨畑と森や緑地が多く点在していますが、最近緑が減少し続けていることに危機感を抱き、都市の森の存在意義について内田先生にお聞きしたかったのです。



市内をつぶさに歩いてみると住宅地がほとんどですが、森、谷戸、畑、海、川があり、寺社も多く残されている一方、臨海部には工業地域もあるなど、実は植物の種類が多いことに気が付きます。植物の種類が多いということは生物も多様であるということです。そんな恵まれた環境なのに市内に森があることを知らない市民も多く、自然と触れ合う機会の少ない子どももたくさんいます。子どもたちの未来のためにも、市民みんなの共有財産である貴重な森のことを知ってもらい、みんなで守っていきたいと考え、「いちかわ森の交流会」は8つのボランティア団体が協力しながら森で活動しています。人間が生活しやすい環境は他の生き物たちにとっても生きやすく、都市の生物多様性は実は豊かであり、豊かだからこそ人間が生きている、という内田先生のお話をみんなで共有できたのは良い機会となりました。

都市森守るぞ～!

Appendix「いちかわ都市森講演会」開催報告

<https://note.com/greenforestlab/n/n14bfl1e150159>



いちかわ森の交流会 市川山季の会 小黒久美子

チェーンソー初級者講習とロープワークによる伐倒講習

【チェーンソー初級者講習】

期日：11月22日(土) 9:00～15:00

場所：松戸市紙敷「野うさぎの森」(松戸里やま応援団 樹人の会 活動地)

講師：林業・木材製造業労働災害防止協会 千葉県支部 鶴見 治氏

補助講師：平島 健一、小泉 寛人、赤松 義雄

募集定員：20名



【ロープワークによる伐倒講習】

期日：12月7日(日) 9:00～15:00

場所：市原市「天羽田の森」(いちほら里山クラブ 活動地)

受講条件：労働安全衛生特別教育〔伐木等(大径木等)、伐木等業務補講Ⅰ〕修了者

講師：平島 健一、赤松 義雄

募集定員：10名



東葛里山シンポジウム 1st、松戸市で開催へ

ちば里山センターでは令和7年度から里山カレッジを衣替えし、東葛里山シンポジウムを開催します。これまで里山カレッジは県内全域を対象に行ってきましたが、これからは都市部に近接した東葛地域で活動する里山団体に焦点を当てたシンポジウムを開始することにしました。松戸市の里やま応援団などいろいろな地域の里山団体で若い世代が活動に参加し始めています。そのあたりの事情を紐解きます。

東葛里山シンポジウム 1st「里山への思いを語る 50代以下の里山デビュー」

開催日：10月26日(日) 10:00～16:00

開催地：10:00～12:00 紙敷みなみの森、野うさぎの森、石みやの森(里山視察)

14:00～16:00 東葛里山シンポジウム 1st 於：稲台市民センターホール(松戸市)

里山じまん ㊸

行々林せせらぎの森

「船橋にもこんなところがあるんですね」

千葉県特有の里山景観である谷津田を見た人が異口同音に発する言葉です。市の北部、アンデルセン公園や県民の森の東に位置し、鈴身川の両岸幅100mほどの谷津とその周辺が私たちの活動場所です。



鈴身川に入って草刈り

行々林は

「おどろばやし」と読みま

す。昭和29年に船橋市と合併する前は豊富村行々林という地名でしたが、

難読ということで鎮守である鈴身神社から鈴身町に変更されました。行々林という名前の由来は諸説ありますが、郷土資料には「おどろは草木の乱れ茂っているさまであり、おどろおどろしに通じ、うっそうとした林の意」が有力と紹介されています。「行々」は当て字で、「ぎょうぎょう」がおどろおどろにふさわしいということだそうです。

行々林せせらぎの森

横山誠司代表



ちばSDGs

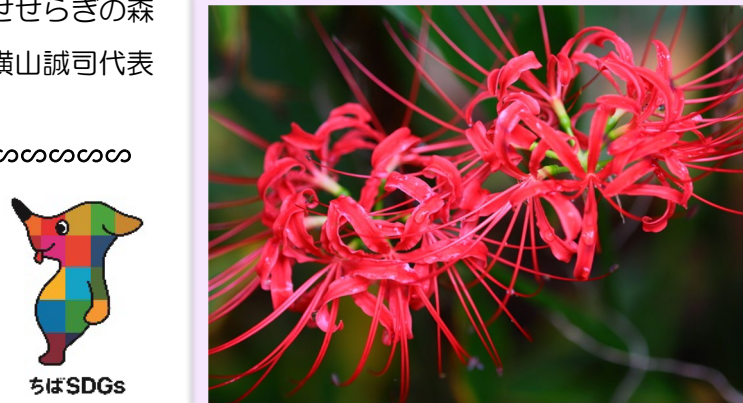
ちば里山センターでは、里山整備を通じて環境問題や、地域の課題、子どもの教育に取り組んでいる団体を支援しながらSDGsで県民に親しまれる豊かな森づくりに取り組んでいます。

～ちばSDGsパートナー2386号～

つれづれごと 新

やっと暑い夏が終わろうとしています、皆様はいかがお過ごしでしょうか◆ヒガンバナも暑さのせいで開花が遅れて今が盛りとなっております◆これからイベントが目白押しの時期となりますが、参加者の期待に添えるように頑張りましょう。

(Y.A)



ヒガンバナ<彼岸花>ヒガンバナ科ヒガンバナ属

原産地は中国であり日本においては史前貴植物に分類される。日本全国に分布し、秋の彼岸の頃に、鮮やかな赤い花を咲かせ。地下の球根に強い毒性を有する有毒植物である。別名として曼珠沙華とも呼ばれている。

写真・文 赤松義雄 R7.9.19 袖ヶ浦市神納

入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896(平日 9:00~17:00)

E-mail info@chiba-satoyama.net ホームページ <http://chiba-satoyama.net/>